

※にいじまむら 議会だより

第 85 号
平成 30 年 8 月



タカベの刺し網漁。最終の網の引き上げ。

平成 30 年第 2 回定例会（6 月）

会 期 日 程

第 2 回定例会は平成 30 年 6 月 13 日に開催され、一般会計補正予算、教育委員会教育長の任命の同意、議会議決の必要な請負契約などを審議、決定しました。

も く じ

表紙は語る	2
一般質問から	2
議会にいきかう言葉	3
ほっとプレイス	7
議員の月間リレー日記	8
議長の日ラウンド	9
特集 長野県南部の先進地を視察!	11
議長の四季報	16
編集後記	16

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をたずることができます。

表紙は語る

7月中頃、若郷の漁船が大漁を祈願して朝6時に渡浮根港を出帆。天候は上々。タカベを狙った刺し網漁でこの日は式根島の足附沖と若郷の淡井沖で網を入れた。

漁法はアラミ役の2人がそれぞれの場所で海中の魚群の量を目視。これを決められた符丁で

（写真撮影は若郷・北村武氏）

村長はこの現実をどう捉えるか？新島村を

発展させていくにはどのような施策を展開していったらよいか？

産業の低迷が長期化するなかで、生活の安定を求める人たちが第一次産業から第三次産業へ流れたと推測している。

今後は地域資源を生かした特産品の発掘と後継者の育成が急務と考える。各産業団体と協力し、産業の活性化を進めていきたい。

送信し、網入れを決める。漁群を囲むように投げ入れ、船は網の中央に移動。ここで海水面を叩くなどすると、魚たちは四散し、網に突き刺さる。あとはおもむろに引き上げるだけ。

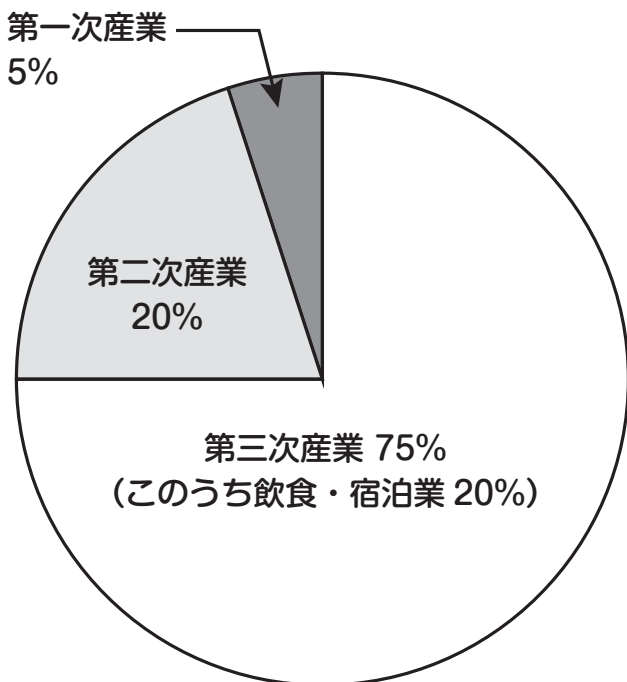
漁獲はどうだったか？この後、一晩、漁協に預け、明日、東京方面へ出荷とのこと。

山本均 議員



新島村の産業の未来は？

問 平成27年の国勢調査を元にした産業別の就業人口割合は下の円グラフのとおりとなる。



産業別就業割合（平成27年）

議会にいきかう言葉

次の定例会の開催日が決まるとこの一週間ほど前に議会運営委員会が開かれ、さらに10日ほど前に一般質問の通知書が各議員に配付される。これにより質問予定の議員はその概要を1問につき2百字程度にまとめて通告書として議会事務局へ提出する。

この通告書を提出した順が本会議の質問順となり、本紙の記載順ともなる。質問内容には細かい制限はないが、通常、村長の政治姿勢や施策の方針など一般的・概括的なものを主とする。ただし個別・具体的な質問を排除するものではない。

次号では現状の一般質問の仕方と問題を探り、その改善策を考えてみたい。



石白川から式根島港をのぞむ(7月初旬)。

今夏の観光はどのようなのか？

問

夏の観光に対する村長の基本的な考え・姿勢をお訊きする。

村がこれまで取り組んだ施策の評価、今後どのような事業展開をしていくのか伺う。

答

夏を控えて新島・式根島のポスターを都内の主な駅に掲示し、島じまん2018、物産展などでPRする。

昨年の夏の反省から夏の来島客が多いときに大きなイベントは開催せず、オフシーズンにするようにして誘客

のバランスを図っていく。好評だったにしきの運航増便は今年も実施する。

6月から光回線サービスが始まり新たなコ

ンテンツの発掘、情報発信事業などによって新島・式根島の知名度を上げ、観光産業の活性化を図っていく。

国保税の制度改正への疑問

問

今回の国民健康保険制度の改正は保険者に東京都も加わり、

村はその下で徴収するのみで医療費の削減とは無関係である。

しかし国は医療費の総額(負担額)を減らすことが最終目的だから次に国保税を上げることが想定されるが、村長はこのことをどう考えているか？

答

国保税を減らしていくことが目的であり、それには病気になるらないよう「さわやか健康センター」での健康維持を強化していきたい。

また生活習慣病などを念頭に住民が健康でいられるようその増進を考えていく。

青沼 弘 議員



寺ん山避難場所は安全か？

問 急傾斜地崩壊危険区域内にある寺ん山避難場所は安全か？

答 新島村地域防災計画は平成27年度修正版が最新となり、その中で第一次避難場所は想定される最大の津波から安全な標高があることから寺ん山を避難場所に指定している。

平成29年8月に東京都が新島・式根島の土砂災害計画区域が指定されたことを踏まえ、



ここで大丈夫？新島小学校北側の寺ん山入り口。

今年度、村では地域防災計画の改訂を行う予定でいる。その中で寺ん山避難場所等の見直しを行っていく。

(※村では観音様への

避難を視野に検討を始める予定。)



大沼 弘一 議員



島外病院を受診する際の交通費等の助成制度について

問 助成制度は12月議会、3月議会でも

同じ質問をし、村長から実現にむけて大変心強い回答を頂き期待している。庁内で検討するように指示されたら伺っているが、その後の進捗状況は？また課題は何か？各島と協議し東京都に要望していくとのことだが、その成果も含めて伺う。また今年度補正予算に措

置されるお考えがあるのか、合わせて伺う。

答 今年度中の助成制度新設を目指して

いる。概略だが、全住民を対象に所得制限を設け年数回、一回あたりの固定金額を設定して実施することを年内をめどに考えている。

現在は東京都に対し要望活動は行っていないが、今後は財源確保にむけての要望を行っていききたい。

問 村の危機管理について

南海トラフ地震、豪雨等による土砂災害、火山噴火災害等の発生

が大変危惧されている。村の危機管理体制は十分に確立されているのか？そして十分に機能するのか？また災害に対する住民への啓もう



活動や避難訓練等が少なく村全体の危機意識が薄くなったよう感じている。あらためて村長の防災全体に対する考えを伺う。

答 村の危機管理体制は地域防災計画の中で生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としている。機能するかは常日頃の訓練や意識付けが必要と考える。

住民に対して啓もう・啓発を行って行く。防災訓練の内容は防災会議で検討する。

問 対策本部の中心となる総務課長は若郷支所長、議会事務局

長を兼務、防災担当主幹は廃止。雨により防災訓練が中止になれば一年間何の自主訓練も実施しない。職員や管理職は毎年変わり災害時の役割も変わる。危機管理は本当に大丈夫なのか？

答 災害時には若郷には副村長に対応させる予定で検討を進めている。

空き家対策について 村では今年3月に策定された「新島村空き家等対策計画」にそって事業を実施されていくものと大変期待している。事業の進捗状況、計画や課題があれば教えていただきたい。

問 また人口減少等により今後も空き家が確実に増えていくものと推

測するが、防災対策の観点からも危険家屋の除去等は喫緊の課題とおもいますが、いかがか？

答 進捗状況は空き家所有者への意向調査を6月末までに送付する予定している。また利活用の予定のない老朽家屋は危険度の高い順から立ち入り調査を実施して改善す

るための助言、指導を行うっていく。 期待している。危険家屋等には様々な事情があると考えられる。早急に担当部署を設置して相談窓口を開設したらどうか？



式根島の裏通り。昼なお静寂。

問 現在担当はおいでいないが、検討し設置するように努める。

答 前田卓秀議員

村内放送について 先日、島外在住の方が連れてきたペットの犬が迷子になり、搜索のため村内放



前田卓秀議員



絶景かな。水平線に富士山を遠望する露天風呂。

答 村では生活情報のように不特定多数の利益になるもの、人命に関わる場合などは命に代わらないが、個人的なものはお断りしていただきます。

送をしてほしい、と要請したら断られたと聞くが、どうしてか？



湯の浜露天温泉について

問 先日、湯の浜露天温泉の浴槽が大変汚れていたが、なぜそのようなになったのか？キチンと清掃されてないのか？その後どのように対処されたのか？

答 温泉の汚れには利用者からも指摘があり、担当課も把握していた。清掃員は昨年から2名体制で実施していたが、たびたび人員が不足する事態が発生した。委託先では清掃員の勤務体制や勤務時間などを緩和し、募集に努めているが、集まらない状況が続いて

いる。

現在、清掃日を決め作業を行っているが、委託先と協議を進め、良好な環境が提供できるように努めよう。



木村諭史 議員



産業団体会議の実施について

問 商業・観光業を担当する団体から産業分野の横断的会議

を行い情報共有をしていきたいという声が上がっている。ここ一年ほど役場主催の会議が行われていないのでないかと思われるが、その現状と今後の予定を問う。

答 ご指摘の通り産業団体会議はここ一年程実施していない。新しいイベントや大きなイベントの際には、個別に関係者と打ち合わせをして情報共有してきた。商業分野の横断的会議は、今後各団体の意見を聞いたうえで、できれば夏前に実施していきたい。

消防体制の課題把握と改善について

問 新島村の防災計画を見据えて、先日発生した火災からの教訓・反省を活かす必要



消防分団員による自主的なホース点検。
使用済みの点検はもちろん、新品も水を通しておく必要がある。

がある。①課題・教訓はなにか？②地域消防団での振り返り・共有・改善活動へのサポートはどのようなか？③消防団の訓練計画や防災計画への反映はどうするのか？また、議事録・消火要領・水利マップも団員がスマートフォンで見られるように検

討をお願いしたい。
答 火災後に消防団役員会議にて意見共有、改善策の話し合い、議事録を作成した。空港消防では各詰め所を回り、消火用ホース・防火衣などの点検を行っている。
6月の幹部訓練では、消火栓からのホース延

長を軸とした想定訓練を行う。中学校旧プール周辺の新しい水利も検討している。火災や行方不明者の確保・情報共有を含め、警察と協定を結んだところである。スマートフォンでの情報共有も検討していきたい。



ほっと
プレイス

コーガ石のある風景 3

ここは石白川海岸へ向かう下り坂、途中にある山本正利さん宅。
昭和40年代始めに建築。民宿と磯料理屋を営み、後者で評判を呼んだ由。現在、廃業し、伊豆の住まいとの間を行き来。

5月 議員月間リレー日記

●青沼 弘

1日(火)～6日(日)

ゴールデンウィーク中

はこれまでの疲れを癒すための休養。

半年余りの議会活動を

振り返り、今後の予定を
思案。

7日(月)

今日は朝から仕事。

自宅にて書類整理。行
政書士業務を行う。



10日(木)

雨もようやく止んだ。

明日から上京のため今日

は1日農作業を行う。

11日(金)

姪の結婚式のため上

京。

12日(土)

姪の結婚式に出席。

13日(日)

夜行船に乗船。

14日(月)

帰島。午後から農作

業。

9日(水)

今日も朝から春の嵐。

●木村 諭史

15日(火)

工場にて1130度の
焼成試験を行う。商品購
入と委託試験の引き合い
があったので、メール対
応。試験の合間に議会だ
よりの原稿修正。

16日(水)

午前は装置のメンテナ
ンス、実験データ整理。
午後は役場・議会事務局
を訪問。議員視察の詰め
と議会だよりの原稿確認
を行う。

17日(木)

翌週上京時の他島若手
議員や議会関係者との勉
強会・懇親会の調整。午
後は抗火石で困ったガス
コンロでコーヒー焙煎。
1kg焙煎に選別から始め
て2時間。

18日(金)

昼過ぎに商工会での意
見交換会に参加。26日に

東京都商工会青年部連合
会の島しょブロック会議
の参加表明。リーダー役
を4年勤めたOBとして
意識共有の準備をする。

夜は地域活動の会議。

19日(土)

沿道にてトライアスロ
ン応援。夕方から教育関
係者とゲームを通じた交
流と各種相談。

20日(日)

近所の葬儀等に出席。

マルマン駐車場のフリー
マーケットにて時間を短
縮してコーヒー出店。天
気も良く、観光客にも
島民にもコーヒー片手に
心地よい交流の場になっ
た。

21日(月)

午前は臨時議会・全員
協議会に出席。午後は工
場にて焼成試験を実施。

22日(火)

飛行機で上京。島しょ
会館で若手議員と勉強
会。その後、他島の議会
事務局交えて懇親会(一
ターナー者を、住宅、仕事
環境、コミュニティ活
動、人間性・才能の尊重
を含めて受け入れる重要さ
を共有した)。

23日(水)

午後3時半から千代田
区・麴町のグリーンパレ



夜は大島支庁管内事業
説明会の質問状を作成。

換及び意見交換。

スにて東京都町村議会議員講演会。テーマは「災害に強い地域づくり」。この後5時半から多摩・島しょ議員の懇親会。

24日(木)

村議会の視察研修。朝8時26分に島しょ会館前を貸切バスにて出発。長野県・喬木(たかぎ)村をめざす。

* * *

●前田 卓秀

25日(金)

午前中は下條村の施設を見学し、午後からは飯田市南信濃振興公社の温泉を利用したフグの養殖を視察。すべての日程を終え7時半過ぎに東京着、解散。

26日(土)

「島じまん」のオープニングを見て、新島ブースの手伝いをし、国会議員や都議会議員と名刺交



27日(日)

今日も「島じまん」新島ブースの手伝いをし、他の島のブーを見学。午後6時終了。夜の大型船で帰島。

28日(月)～31日(木)

新島の波情報をSNSに投稿。さらに防災新島や観光案内なども共有して投稿。

午後から美容室の仕事。いつもの新島の生活にもなる。



議長の目^{アイ}ランド



小笠原諸島返還50周年記念式典に参加して

世界自然遺産登録!環境に配慮した村内整備!若者の多い活気に満ちた島々!

(議長 前田 邦弘)



世界自然遺産登録とその保存

1968年に小笠原諸島がアメリカの統治下から日本に返還されて50年経ち、日本で一番若くて活気のある島々である。

2011年外来種対策や保護担保措置などの課題をクリアして世界自然遺産に登録された。この後も外来種の新たな島への侵入が確認され、その対策は継続的な課題となっている。島に下船の際には靴などの裏を消毒し、付着物の上陸防止を行い気を配っている。特に近くの南島に行くのにも靴の裏を塩水で洗うな

ど世界遺産の保持に力を注いでいる。返還直後は自然保護よりも復興事業を優先する風潮があったそうだが、現在は環境問題に対する島の人々の意識は確実に高まっているという。

活況を呈する観光業

現在、観光客は年間3万人に達する勢いで、ユネスコ自然遺産の登録と新しいおがさわら丸による快適な船旅が約束されたことが一因となって島全体が活気にあふれているように思えた。新島で言えば昭和50年代半ばのあの雰囲気似た感じをつけた。

行政的にも小笠原は小笠原諸島復興特別措置法により村内整備は伊豆諸島の島々とは違い、環境に配慮された区画整備が施され、メインストリー

トには電柱が1本もな
 繁華街、住宅街、公共
 施設街等環境に配慮さ
 れた町並みになってい
 る。もちろん、伊豆諸
 島の多くの町村が町村
 施行130年以上とい
 う歴史に比べれば、50
 年という若い小笠原と
 いうこともあるが、自
 然環境に配慮した町並



父島の生協前の通り。祝賀パレードに出発する前のざわめき。

午前中は父島現地調
 査を行い、午後からは
 小笠原諸島返還50周年
 記念式典に参加。
 2400人の島な
 のにどこからこれだけ

6月28日
 東京竹芝桟橋を午前
 11時に出港し、船内で
 昼食・夕食・船中泊。
 6月29日
 朝食後午前11時に父
 島二見港に到着下船。
 快適な船旅とはい
 ながら24時間の船旅は
 長い。到着後、早速島
 内視察や南島等の海上
 調査。父島泊。

東京からの往還日記

6月28日
 みの美観や亜熱帯植物
 の醸し出す美しさはほ
 かの島とは違ってい
 る。自然志向の強い観
 光客がまだまだ増えて
 いくのではと感じた。



同じく大神山公園の記念式典。森下村長、小池都知事、石井国交大臣等
 つぎつぎと登壇。

の人が集まったのかと
 思うほど、メインスト
 リートは人で埋まって
 いた。小笠原のパワー
 に圧倒された記念行事
 だった。

特に子供の多さに圧
 倒されたが、小学生が
 160人とか。24時間
 の船旅、他に交通の手
 段のない島なのに、な
 ぜ多くの若者が魅せら

れるのか不思議な思いに駆られた。

7月1日

7時30分に父島二見港を出港。9時30分母島沖港に到着。11時から母島の記念式典。

18時 はは丸(い)

ナイト2018に参加(母島泊)。

7月2日

10時 東京都町村長・町村議会議長合同会議が開催され、小笠原の空港問題や自然環境等、意見交換。

12時30分母島沖港を出港。

14時20分父島二見港に入港。

15時30分小笠原丸に乗り換え、盛大な見送りを受け二見港を出港。

7月3日

15時30分東京竹芝に到着。5泊6日の長い船旅であった。

小笠原の訪問を振り返って

現状の小笠原は元気で活力に満ちているが、昭和50年代の離島ブームで燃え上がった伊豆諸島のように、一過性のブームにならないことを願うのみ。特別な環境や自然遺産を大切に育て、緊張感を持続し、地道な努力が求められてくる。

今回の出張は東京都13町村の町村長・議長と合同であったこともあり、13町村長と議長との小笠原返還50周年記念式典参加を通じ、よりコミュニケーションを深めることができ大変有意義な旅であった。お世話していただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

長野県南部の先進地を視察！

議会改革・移住促進・産業振興をさぐる

島しょ会館から貸し切りバスに乗って、5月24日から1泊2日で長野県先進地視察に出発した。

今回のテーマは『議会改革』である。ここ一年、全員協議会・総務常任委員会の中でも意見交換されてきたテーマである。

選定のきっかけは、議長が配った議会改革先進事例の新聞特集からである。

何力所か打診した結果、『夜間休日議会』を開催している長野県の喬木(たかぎ)村を選ぶことになった。

喬木村議会ウェブサイトに掲載されている議会改革レポートを事

湖から南下する形で喬木村に到着した。

今号には喬木村議会訪問(12・13ページ)だけでなく、周辺の視察先である、小池手造り農産物加工所(14ページ)、下條村(15ページ)を掲載し、次号に温泉トラフグ養殖事業を掲載予定である。(文章 木村諭史)



長野県 視察先の地図

夜間・休日議会で議会は変わる!?

充実の意見交換は2時間を超えた!



事前の資料読み込み&事前質問を経た有意義な意見交換も

長野県喬木村へ、議会改革の取り組み状況を視察した。喬木村議会からは10名の議員に出席していただき、岡議長から議会改革の

スライド説明の後、質疑応答に入った。スライドは全52ページにおよび、議員全員が自由に編集・発表できる。

地区を大事にする喬木村の背景

明治8年に5か村が合併し現在に立っている。南信州に位置し、岐阜県愛知県静岡県に隣接する山村地域である。10地区のうち2地区で議員が不在となっている。

夜間休日議会の意義は? 議員のなり手不足の解消が主な目的である。

村議会議員選挙が、平成13年以降無投票と選挙を交互に繰り返して、直近の平成29年は無投票。

だが成果があらわれるのは平成33年の選挙であろうとの見通し。

議長が牽引&引くに引けない状況で取り組んだ

無投票をきっかけに議会改革委員会で検討をはじめ、平成24年に前議長が主導して議会基本条例が制定された。

現議長による『議会活性化のための15の提言』のうちの1つとして実現。

構想段階で新聞に載ったことで、スピードアップもしたが、議員各位には負担があったかと思われる。

議会傍聴者は増えてきた? 行政職員が夜間休日開催のため、見に来られるようになった。議会中継は行っており、議会モニター制度を行っているため議会傍聴者が多いとのこと。

議会モニターで市民の視点&なり手を引き込む!

議会モニターは地区1名ずつ+公募4名の20名であり、高校二年生も入っている。

耳の痛い意見も出してくれている。議会モニター経験者も傍聴に来てくれたりしている。

わかりやすい資料で傍聴者をはなさない! 普通の予算書ではなく、分かりやすい予算書で審議し、持ち帰れる配布資料もある。次回も傍聴に来てもらえるように工夫をしている。(文章 木村諭史・大沼弘一)



大沼弘一の視点！

新島村とは様々な環境の違いはあるが、幅広い年齢層、

多様な職種・立場の議員が活動できる議会環境の整備が必要と感じる。

議員定数の削減も検討課題であるが、

住民の代表が減ってしまうことや、少数の議員で物事が決定される懸念もある。今後慎重に議論していく必要を感じる。いずれにしても議員一人ひとりの資質を高めていく努力が大切と改めて感じさせられた。



前田卓秀の視点！

夜間休日議会の取り組みにより若手議員や兼業議員のなり手

不足解消になると思われる。そして幅広い年齢層の男性や女性が議員として参加し多様な考えや意見を村政に反映できるよつになる。

多様な人材を確保するには若手兼業議員が活動しやすい環境作りが大切である。今のところ新島ではなり手がいないとは思わ

ないが、若手議員のなり手が少ないように感じている。今後の事も考えて新島村議会も取り入れ



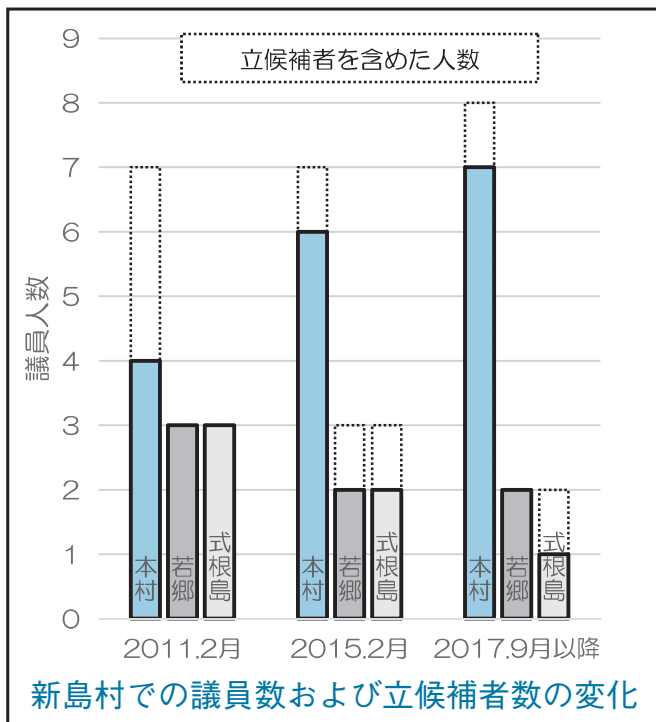
山本均の視点！

必ずしも選挙になることにこだわって

おらず、それよりも議員不在の地区があることが問題と下岡議長の説明があった。私たちの村議会を考えてみると、やはり相容れない部分があり、選挙がないのは良くないと思う。

議会の働きは法律によって決められ全国一律のものであるが、実際の役割は地域によって異なり、歴史的沿革

られる事は取り入れ議会改革をしていきたいと思う。



に左右される。喬木村も議員の多くが地区推薦によって輩出されたことを考えると、50年ほど前には地区内で完結する生活が普通だったのではないかと。各地区的信頼のおける人を暗黙の了承のもとに担ぎ出し、任せる。そのような伝統が続き、地方自治の制度と融合したと想像する。

それぞれの候補者が自己の所信を表明し、有権者の審判を仰ぐ。この基本はわが村ではずっと踏襲されてきていると理解する。

私の考えは、議員定数を削減して選挙体制を維持して有権者の審判のもとに選良を選出すべきということである。

魅力的な農産加工技術を視察！

起業者の熱意と創意工夫に最高の刺激が！

元新島村ふれあい農園の担当職員であった小林氏からの紹介があり、小池手造り農産加工所有限会社を訪問した。

同社は売上の7割を占める委託加工を中心に自社製品の製造・販売も行っている。従業員は31名で、全国のべ2000件ほどの農家との取引がある。

加工品の魅力の秘密は？

地域の素材を生かした手造りへのこだわりと、『今日入った原料は今日製品にして納入する』小ロット生産を貫いている。

農産物を加工品にすることで、多品目化と賞味期限の長期化、高

味見による微調整が重要だそうだ。

コツコツ積み重ねて事業化へ

会長の小池芳子さんは、昭和7年生まれで、農村女性として無人販売所を全国に先駆けて実施した。

付加価値化を実現している。他産地と混ぜずに持ち込まれた作物だけに加工することで、個性的で魅力的なオリジナル商品が生まれる。容器と装置への熱湯消毒、手間暇かけた加工技術、長年の経験と

喬木村議会議員を二期務めたのち、60歳で小池手造り農産加工所と



たくさんの加工品が並ぶ事務所で小池会長と。

して独立した。その後2001年に法人を設立した。77歳のとき黄綬褒章を受章。

(文章 森田一)



青沼喜八の視点！

日本全国から原料となる農産物が集まり、委託加工の注文が来ることに驚いた。その

の出発点は行政からの補助金では制約があったので自分が描く本物のジュース加工はできないと思い、喬木村の農業生産意欲につながったこと、今があるといったことに感銘を受けた。

森田一の視点！

新島農協でも取り入点か質問したが、『加工方法にしても、加工機器にしても、ここに来れば何でも教えます』とのことで隠すものは何もないとの事でした。



棚には『小池芳子の手造り食品加工品のコツ』という本が

品目別に数10冊並んでおり、2冊ほど買ってききましたが、写真やイラスト入りでとても丁寧に書かれてあり読みやすい本です。

子宝村の奇跡と今をさぐる！

奇跡の根底には住民自治が！

子育て世代の移住を促進し、奇跡の村と呼ばれる下条村を訪問した。残念ながら議会視察は他議会とバッテリーが、調整がかなわず当議会の自主的な視察となった。

途中の観光施設『そばの城』にて、地元に通じた方から説明を伺うことになった。

下条村の施策とは？

独 自の子育て支援として、高校までの医療費無償化、出産祝い金支給事業、保育料の引き下げや無料化、入学祝い金の支給、給食費補助等の支援を行っている。若者定住促進住宅としてマン

ション並みの広さの住宅を数多く格安で提供している。

健 全財政を維持するために役場の効率化を実施するとともに

住民参加による公共事業費の削減にも努めている。

その成果により多くの若者世帯が移住し、奇跡の村として合併せずに活性化に成功している。（文章 木村諭 史・大沼弘一）



充実した設備かつ低価格の村営住宅。2LDKで3万4千円。

大沼弘一の視点！



近 くに飯田市がありそのベッドタウンとしての役割もあり、当村と違い働く場所が確保できている。だが反面、高校進学、大学進学等により子育てがある程度終われば定住化せず離れていく世帯が多いという課題も見えた。

先 ずは、新島村住民が住みやすい村を築くことが大切でありそれが定住化促進の近道であると改めて考えさせられる。

青沼弘の視点！



子 育てが終わると実家のある所や近隣の町に引越していく人が増えており、ピーク時よりも人口が減ってきていると言う。その要因の一つとして、近場に働く場所がないということも考えられるのではないかと考えていた。

働 く場所の確保・子育て支援などが充実していれば、新島村でも、人口減少は防げるのではないかと思う。

● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 4 月 6 日 新島小学校の入学式に出席
 9 日 都立新島高校及び新島中学校の入学式に出席
 2 4 日 村長と議員で防衛省・防衛装備庁及び北関東防衛局を表敬訪問
 2 7 日 愛らんどリーグ 2018 実行委員会に出席
 3 0 日 観光協会主催の海上安全祈願祭に出席
- 5 月 1 8 日 下田市黒船祭に出席 (20 日まで)
 2 1 日 第 1 回新島村議会臨時会
 2 3 日 東京都町村議会議長会及び平成 3 0 年度第 1 回定期総会に出席
 2 4 日 新島村議会議員視察研修を実施し、長野県喬木村議会を訪れ意見交換
 2 6 日 島じまん 2018 が竹芝栈橋前広場で開催され、出席
 2 8 日 平成 3 0 年度全国町村議会議長・副議長研修会に副議長と出席
- 6 月 1 日 第 2 回議会運営委員会
 5 日 平成 3 0 年度第 1 回新島村防災会議に出席
 平成 3 0 年度大島支庁管内都事業説明会に出席
 8 日 天育法院別当墓参講一行が山形県鶴岡市から来島し墓参講に参列
 13 日 第 2 回定例会
 27 日 小笠原諸島返還 50 周年記念式典に出席のため上京 (7 月 4 日まで)

編集後記

前号より議会だよりも特集記事を中心に新しい試みをしています。今号も含め、いかがでしょうか？

村民からご意見がありました。縦書き(一般質問など主な記事)と横書き(視察レポートなど)が混在していて読みづらいのは、まず今号の視察レポートと議長の目らんどを縦書きに変更しました。

また7月12日に議会広報の添削と講義を受講し、より見やすいレイアウトの指摘を受けてきました。今回の視察レポートはその指摘箇所をすべて改善してみました。

当議会の広報は全戸配布のため、他の議会の『手に取って貰えることが第一』という方針より、少し踏み込んだ内容になっているとは思っています。

議会だよりの掲載を意識することで、いままです記事になりづらかった議員の仕事や考えが整理され、それが本紙を通じて皆様に伝わり、皆さまの声が議員に届き、大きな輪で村政に反映されるように努力していきたいと思えます。

● 広報編集副委員長

木村 諭史